

顔料について(1)

顔料と染料の違い

顔料は絵具に用いられる発色成分ですが、なぜ顔料と呼ばれるようになったかごぞんじでしょうか。古代より人類は何らかの形で顔や身体に彩色をほどこして、内面の意識や感情の表出や強調をはかりました。祭祀や呪術を行う場合とか、美しく装うための化粧がそれであり、最も代表的な部位は顔です。それに着色するわけなので『カオのモト』つまり『顔料』です。色をつける材料には、もうひとつ染料があります。こちらの方は衣服の染色に用いられたことから、染料と呼ばれるようになりました。

現在では水や油に溶けないものを顔料、溶けるものを染料として区別しています。染料はそのままでも着色できますが、顔料の場合は展色材がなければ着色できません(展色材とはいわば糊のような液体で、これが固体化することによって顔料を画面に固定させます)。油絵具は乾性油、アクリル絵具はアクリルエマルション、水彩絵具は水溶性のアラビアゴムをそれぞれ展色材に使っていますが、各絵具に用いられている顔料は基本的に同じものです。

顔料の種類

顔料には天然でとれるもの(天然顔料)と、人工的につくられたもの(合成顔料)があります。天然顔料としてはシエンナやアンバー、テールベルトなど土系のものがあるのですが(これらは全てイタリアでとれる土)、その他、鉱石、風化した貝殻、木炭など、天然にある無機物を砕いて粉末状にしたものです。天然顔料の中にはカイガラムシや茜の根、藍など昆虫や植物から採取される有機系の顔料もありますが、耐光性などの性質が劣っていたり、稀

少で高価なことから現在ではほとんど使われなくなりましした。合成顔料は無機顔料と有機顔料に区別されます。無機顔料は金属の化学反応によって得られた酸化物や結合物からつくられた顔料で、有機顔料は石油などから合成した顔料です。無機顔料には鉛白のように古い歴史を持つものもありますが、大部分は18世紀以降の近代科学の産物です。しかし、銅、鉛、水銀、クロム、砒素、カドミウムなどの毒性が人体に害を及ぼすこともあるため、最近では減る傾向にあります。それに代わって、有機顔料への比重が高まっています。

無機顔料と有機顔料の見分け方と特色

一般の人が油絵具の顔料一覧表を見て、無機顔料と有機顔料を見分けることは難しく思われますが、実は簡単に見分ける方法があります。「○○レーキ」あるいは「○○系」と書かれているのが有機系の顔料で、金属名の冠せられているものが「○○土」と書かれているのが無機系の顔料です。レーキというのは、染料を何らかの仕組みで顔料にしたものをいいます。

個々の顔料が異なった性質を持っているため一概にはいえませんが、通常、無機顔料と有機顔料とでは、光沢や絵具中の油の含有量、隠ぺい力、着色力、耐光性、彩度に差のあることが多くみられます。なぜそうなのか。その理由と「有色顔料と体質顔料」について、次回にご紹介します。



有機顔料

無機顔料

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は...

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.072 (985) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)